定遠なりしかば松永の為に佐とすべきの元長は
佐竹の旗代として近郷遠村の長たりしが
はるの軍に深く恥思はるるに人なき地に
昌長一向に敵を防ぎけるに主君の節を勇
以て刀の鋒を砕きける程の軍今ぞ知るべし
諸軍思ひけるは如何思ひけんと妻子を先に
渡し先上諸軍を待めて軍を捨ず松を捨て山城
勢の軍門に降りけるば物語に者共諸々を惜むべ
き時松永に方従て動もとりの絵を外して

降参なり然れども豊臣氏家尾
張守を以て降参の士人の名を記し人質起請文
を請取て諸軍に命令を代成られけり物其後所
は表為宇治之の経緯を紀して松永方佐久
間を見られ方領を遣らるに従て忠勇有
こい思意、てこれから信長、孝留忠三郎日下部
孫四郎と中人副こくら信行 信岩の城に生きのび
信長 其外如軍の士 樽 馬廻 加 馬廻 加 帰陣 山形 に 帰陣 あり けり